



資料を基に学ぶ

昨日、社会科指導員の平岩大督先生（東海中）をお招きして、3学級が研究授業に臨みました。5組は生活単元「いろいろなマーク」、6年3組は社会科「武士の世の中へ」、5年1組は社会科「自動車をつくる工業」の授業を行いました。5組は、身の回りにあるマークに着目し、それがどんな意味を持つのかを読み解いていきました。6年3組は、歴史の学習で、元寇の様子を描いた「蒙古襲来絵詞」の資料を基に、当時の御家人がどのような思いを抱いて元との戦いに臨んでいたのかを考えました。5年1組は、トヨタ自動車のホームページの車種一覧を見て、多くの種類の車をどのようにして作っているのかを調べていくための課題づくりを行いました。どの学級も、資料を基にした学びが展開されており、社会科で身に付けたい資料活用の力が確かに育まれていると感じました。



▲5組（生活単元）



▲6年3組（社会）



▲5年1組（社会）



【5～11組】バケツ稲の収穫

5～11組の子供たちが、約半年をかけて大切に育ててきたバケツ稲。一人一人の思いが実を結び、黄金色の稲穂が実りました。そこで、本日本、おかざき農遊会の皆様に指導をしていただきながら、稲の収穫を行いました。はさみを使って稲を刈る際に、子供たちは緊張しながらも喜びが感じられる表情を見せていました。今後は、刈り取った稲穂を一週間程度天日干しにした後、10月中旬に脱穀や精米の作業を行う予定です。稲穂から「お米」が取れた暁には、子供たちは今日にも増して嬉しさが込み上げてくることでしょう。その日を楽しみに待ちたいと思います。



▲おかざき農遊会の方の指導を受けて、丁寧に稲を収穫する子供たち